

第 4 回 大分県有識者会議（平成 3 0 年 1 1 月 8 日開催）概要

○議事

（1）地震・津波を想定した地域防災・減災力の向上について（小林副会長）

1. これまでの活動

防災教育のコンテンツをどうするか？

1. 講話，特別授業
2. 学校点検
3. まち歩きなどのワークショップ
(危険の認知と避難を誘発する仕掛け)
- ★4. おうちの人と考える防災

リスクを点検し，共有する

2. リスクへの対応をどう考えるべきか

- ✓リスクが**イメージ**できているか = **当事者意識**
- ✓リスクをイメージするために求められることは
…体験を通じて知ること（知識だけではダメ）
- ✓ハザードと災害の違い → 減災へ



図表出典：減災政策入門（弘文社）から作成

3. 地域防災力・減災力の向上へ

- 学校では... 防災教育を継続すること
家庭に波及させ、地域との連携を図る
教員だけではカバーできない
教員の持続的な防災への取り組み
- 家庭では... 子ども達との対話を継続的に
非常時の対応（持ち出し品、情報等）
耐震補強
地域との連携
- 地域では... 子ども達に何がしてあげられるか！？
避難所運営をどうするか
災害時要援護者の対応
学校，家庭，行政との連携

4. 復興デザインの考え方

そもそも…復旧と復興は違う（はず）

復旧とは…「被災した人工構造物などのいわゆるハードを被災前の状態に戻すこと。あるいは、被災を教訓として必要に応じて強化すること。」

復興とは…「まちの姿や賑わいを被災前の状態に回復させ、さらには、将来の地域ビジョンを共有し、より一層活性化を図ること。」

大分大学減災・復興デザイン教育研究センター
『平成29年台風18号災害 津久見市復旧・復興推進計画』への提言より

5. 最後に

- ▶ 防災・減災は「**多重防御**」（複合災害を想定）
- ▶ ソフトもハードも「**弾力性**」（強靱化？）
- ▶ 情報共有・活用も「**多様化**」「**多重化**」
- ▶ 関わり，コミュニケーションの「**コミュニティ力**」
- ▶ 「**自律分散**」← 都市計画・まちづくりの観点から
- ▶ 「**臨機応変力**」「**創造力**」「**想像力**」

▲
当事者意識・我が事意識

(2) 地震被害想定調査中間報告について (県防災局)

市町村別最大震度

(注1) 割合は各市町村メッシュ数に対する震度6弱、6強、7のメッシュ数の%表示
(注2) 1以上は四捨五入表示、1未満は小数第2位以下切上表示、「-」は0を表す

地震名	メッシュ数	中央構造線断層帯による地震				日出生断層帯による地震				万年山-崩平山断層帯による地震			
		今回調査		H25調査 (別府湾の地震(長登後型))		今回調査		H20調査 (別府地溝北縁断層帯による地震)		今回調査		H20調査 (崩平山-万年山北縁断層帯による地震)	
		震度	割合	震度	割合	震度	割合	震度	割合	震度	割合	震度	割合
大分市	7,881	7	(17.26.5)	7	(20.27.1)	6強	(12.1.-)	6弱	(2.-.-)	6弱	(0.3.-.-)	6弱	(0.1.-.-)
別府市	2,016	7	(45.32.2)	7	(46.41.12)	7	(48.28.0.4)	7	(43.20.0.3)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)
中津市	7,661	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	6強	(3.0.2.-)	6弱	(0.9.-.-)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)
日田市	10,303	5弱	(.-.-.-)	5弱	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	6強	(13.3.-)	6強	(10.0.1.-)
佐伯市	14,302	5弱	(.-.-.-)	5弱	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)
臼杵市	4,648	6強	(4.0.4.-)	6弱	(0.7.-.-)	6弱	(0.3.-.-)	5弱	(.-.-.-)	5弱	(.-.-.-)	5弱	(.-.-.-)
津久見市	1,443	5強	(.-.-.-)	5強	(2.-.-.-)	5弱	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)
竹田市	7,399	5強	(.-.-.-)	6弱	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	6弱	(2.-.-.-)	5強	(.-.-.-)
豊後高田市	3,276	5弱	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	5弱	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)
杵築市	4,521	6強	(11.1.-)	7	(25.5.0.2)	6強	(13.0.1.-)	6強	(22.4.-)	5強	(.-.-.-)	5弱	(.-.-.-)
宇佐市	6,831	6強	(11.0.6.-)	6強	(16.0.4.-)	7	(18.11.0.1)	7	(22.2.0.1)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)
豊後大野市	9,302	5強	(.-.-.-)	6弱	(0.5.-.-)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	6弱	(0.1.-.-)	5強	(.-.-.-)
由布市	5,077	7	(30.18.3)	7	(47.13.0.1)	7	(32.10.1)	6弱	(11.-.-)	6強	(13.0.1.-)	6強	(8.0.1.-)
国東市	4,992	6弱	(0.1.-.-)	6弱	(0.2.-.-)	5強	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)
姫島村	141	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)	4	(.-.-.-)
日出町	1,245	6強	(59.12.-)	7	(67.41.1)	7	(64.24.0.7)	7	(41.58.0.3)	5弱	(.-.-.-)	5強	(.-.-.-)
九重町	4,242	6弱	(5.-.-.-)	6強	(18.0.3.-)	7	(32.8.0.3)	6強	(10.0.1.-)	7	(44.28.0.2)	6強	(68.2.-)
玖珠町	4,549	6強	(9.0.5.-)	6強	(12.0.2.-)	7	(22.24.2)	6強	(34.2.-)	6強	(21.5.-)	6強	(25.0.1.-)

死傷者数(暫定版)

津波による被害は堤防が機能しないとした場合かつ早期避難率が高い場合

地震名	季節時刻	今回調査				過去調査			
		死者	重傷者	中等傷者	死者	重傷者	中等傷者	中等傷者	
①南海トラフの巨大地震 ②中央構造線断層帯による地震 ③周防灘断層群主部による地震 ④日出生断層帯による地震 ⑤万年山-崩平山断層帯による地震 ⑥プレート内地震	冬5時	680	3	84	379	750	3	83	394
	夏12時	592	7	64	410	644	5	55	391
	冬18時	634	8	81	394	697	5	67	381
	冬5時	7,107	48	1,730	6,529	9,663	48	2,087	7,047
	夏12時	12,106	152	1,596	7,089	12,012	67	1,284	6,027
	冬18時	13,700	289	2,448	9,050	14,130	90	1,727	6,650
	冬5時	447	0	198	385	515	-	221	431
	夏12時	463	0	112	219	426	0	100	197
	冬18時	484	0	110	215	479	0	108	211
冬5時	357	11	65	767	/	/	/	/	
夏12時	525	64	288	1,565	/	/	/	/	
冬18時	835	116	498	2,127	/	/	/	/	
冬5時	20	0	2	26	27	4	22	309	
夏12時	15	0	5	38	/	/	/	/	
冬18時	16	0	7	38	24	4	26	285	
冬5時	17	1	6	83	23	8	52	587	
夏12時	14	3	30	147	/	/	/	/	
冬18時	18	6	46	165	28	18	105	682	

(委員からの意見等)

- ・ 津波については、地殻変動の効果も H25 調査時から考慮しており、今回もその結果を踏襲していることを調査結果に明記すべき。
- ・ 「万年山一崩平山断層帯による地震」では、地震動が大きくなっているのに被害が小さくなっているのはなぜか？
→人口密度や建物密度が小さいため被害への影響が少ない。

○まとめ(会長)

- ・ 地震動については、前回までの調査と比較しても問題はなく、妥当な結果と言える。この結果を踏まえて、今後社会的な被害の計算に取り掛かることになる。なお、最終報告では想定に用いた各種計算式などを明示すること。

(3) 検討すべき今後の防災対策について(県防災局)

次期「大分県地震・津波対策アクションプラン」改定案の概要	
想定災害	南海トラフ地震の巨大地震及び、大分県被害想定調査において調査対象となっている各地震。
位置づけ	<ul style="list-style-type: none">○ 大分県地域防災計画における、具体的な減災目標と防災・減災対策を掲げた計画○ 大分県地域強靱化計画(※)における、部門計画 <p>※ 大分県地域強靱化計画とは、平成27年11月に、国土強靱化基本法第18条に基づき、事前防災及び被災その他迅速な復旧並びに地域競争力の向上に資する強靱な地域づくりを推進するために策定された計画である。</p>
減災目標	喫緊の課題である南海トラフ巨大地震について、県地震津波被害想定調査結果で示された死者数約20,000人(暫定値)を約600人(暫定値)に抑制する。さらに、死者数を限りなくゼロにすることを目標とする。
施策体系	<ul style="list-style-type: none">○ 大分県地域防災計画及び「南海トラフ巨大地震対策について(最終報告)」の対策項目を参考に作成された「大分県地震・津波対策アクションプラン(現行プラン)」の施策体系を踏襲しつつ、実際の災害や被害想定調査に基づき、具体的な対策項目を追加。 【項目】 ※具体的な対策項目は現行と同様の計100項目程度を予定<ol style="list-style-type: none">1 事前防災(9施策)2 災害発生時対応とそれへの備え(16施策)3 復旧・復興(2施策)○ これまでと同様に、目標指標を設定した一部を県と市町村で共有の項目とし、市町村も地域の実情に応じた目標指標を設定。
推進体制	「大分県防災対策推進委員会」において、アクションプランに掲げる目標の達成状況を点検・協議することなどにより、プランを着実に推進する。
計画期間	平成31年度～平成35年度の五箇年計画とする。

(委員からの意見等)

- ・ 建物の経年劣化等によるリスクが高まっている。土木部門など関係部署との連携が必要。また、事前防災として復興ビジョンの共有や、被災後の迅速な復旧・復興への備え等の復興デザインや、災害時の情報共有や発信についての対策が必要。

- ・ 「死者数を限りなくゼロ」を目標とするならば、想定する死者がどのような状況で命を失うのか、具体的な被害について把握し、対策を検討すべき。
- ・ 集落内のコミュニティが有ることが前提となっているが、高齢化等で集落内コミュニティの維持が難しくなっている集落もあり、集落間の連携も重要。
- ・ 今回の調査結果や、地震計のデータなどが整理されて、誰もが利用できる環境整備が必要。
- ・ 今回の被害想定は、断層を特定して想定しているが、これ以外に、例えば火山性の地震や、一回り小さい地震、またはその組み合わせなど、考えうるハザードに対して柔軟、臨機応変に対応可能であることが望ましい。